千鳥福祉会便り

Leaving Care News つばき

-No.100-
2005.4.1

〒690-0814 松江市東持田町1415
社会福祉法人千鳥福祉会
知的障害者更生施設持田寮
TEL 24-8820 FAX 24-8825
知的障害者通所更生施設
L.C.C.ういんぐ
TEL 24-8871 FAX 24-8872
千鳥福祉会ケアセンター大空
TEL 24-8807 FAX 24-8808
E-mail :chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp
URL : http://www.9ocn.ne.jp/~chidori

改　革

見直しの５年目を迎えた介護保険制度にも、２年目を終えた支援費制度にも“財源的破綻”という根源的な状況があります。常に発展的に推移していく社会を想定した保険方式の社会保障制度には“制度破綻”、国民の多くは、「既存の制度を手直しする程度では解決にならず、戦後60年続いた日本社会の仕組みが大きく変わる予感」として言いようのない不安感を抱いていると思います。社会福祉法人も企業参入の中で一企業として生き残るために、流れに乗り遅れないようにしなければなりません。

歴史的にも福祉は政治経済の影響を大きく受けてきたわけですが、これから先はどうなるのでしょうか。早く、これといった施策が決まり、デンマークのように政治・政党が変わっても福祉施策は継承され、社会的弱者が翻弄されることがないようにならないものかと思わずにはいられません。

前号にも掲載しましたが、新しく提案されている「障害者自立支援法」は障害者の権利を地域連帯によって保障する、その責務を市町村に大きくシフトするものです。そして、障害者を受け入れる地域の基盤整備については国民の協力義務を明確に示しています。ましてや、100名の知的障害者の支援を行っている当法人事業者・職員は、地域の皆様のご理解とご協力を頂きながら、本気で地域福祉の向上に力を注がなければならないと感じています。

地域の皆様方のご支援を心よりお願い申し上げます。

グループホームを利用している知的障害者はヘルパーが使えなくなる！ホント？

「グループホーム（地域生活支援事業）は自立訓練給付であり、介護給付の対象ではない。介護給付事業であるヘルパー制度はグループホームの利用者には使えない」というのが論法のようです。グループホームの支援費を増額するのでの世話人が代替サービスをするのだそうですが、それは少し違うと思うところがあります。

「支援費制度が始まって、知的障害者への居宅介護事業（ヘルパー事業）が制度化され、グループホーム利用者の生活は一変しました。これまで自分の心の奥にしまいこんだままになっていた願いがひとつひとつ適いだしたからです。10人一まとめの支援でずっと遠慮してきた人たちにとって、自分の願いをかなえてくれるヘルパー制度はかけがえのないものであると同時に人としての尊厳を守る大切な制度なのです。

「自分だけの願いのために動いてくれるということが大切なのです。」

需給制限や廃止の対象にしないで欲しい。

ヘルパーさんが使えないということを彼らにどう説明すればいいのでしょうか。

地域での自活訓練事業を始めます。

かねてより計画していましたが、４月から、利用者ご家族のご理解を得て、地域の中で自活訓練事業を始めました。

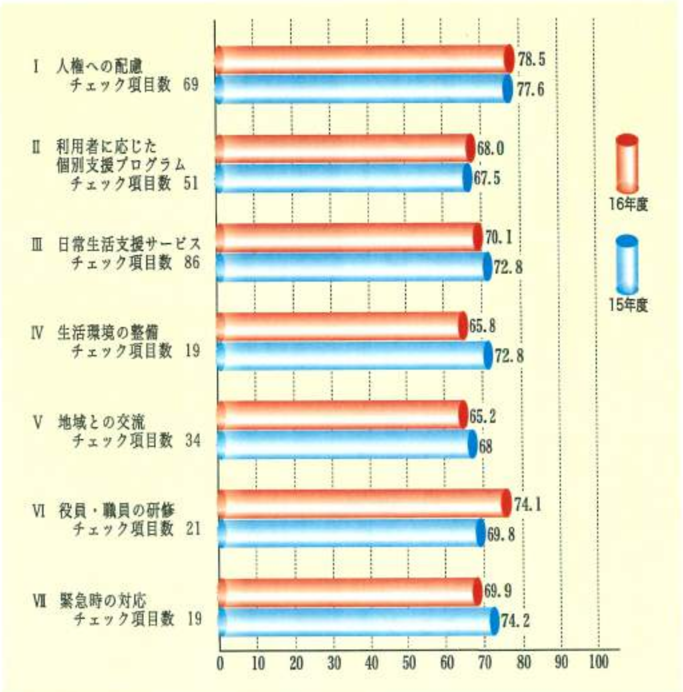
環境適応に制限はありますが、持田寮を後にして、地域での暮らしが始まりました。中には長い方で１４年ぶりに施設の外で生活する方もあります。さまざまなリスクへの対策をたて、住民の方にやさしく受け入れられ、良好な交流ができるよう知恵を絞って取り組みたいと思います。

場所は西持田町日吉“のっと”（井上アパート）です。「のっと」には結び目という意味があります。地域の皆さんが立ち寄ってくださるのをお待ちいたしております。（職員　安達）

ありがとうございました。

日本財団様より車両をいただきました。
大切につかわせていただきます。
（ケアセンター大空）

平成16年度
厚生労働省：障害者・児施設のサービス共通評価基準自主点検結果
（前年度比較）



＊前年より数値が下がった項目は課題を追加したこと等の原因もありますが、今後ともサービスの向上に努力いたします。（千鳥福祉会福祉事業サービス評価委員会）

平成17年度ワークショップご案内

・休日のデイ活動の中で、地域の皆様と触れ合いの場を持ちたく、利用者さんと一緒に考えたワークショップ広場です。気軽にお寄りください。デイのみんなでお待ちしております。
・場　　所：L.C.C.ういんぐ食堂
・時　　間：13：00～16：00
・内 容 等

ショップ名	月　日	内　　　容	費　用
笹巻き作り	6.11	できる人もできない人もみんなO.K。みんなで楽しくおしゃべりしながら作りましょう。	200円
かき氷屋	7.30	イチゴ、レモン、メロン、その他アイデアを凝らしたオリジナルのフラッペご用意します。	200円より
カラオケ喫茶	11.12	通信カラオケで好きな曲を存分に歌ってください。飲み物もあります。	200円
クリスマスリース作り	12.10	自然の材料を用いて、あなただけのとびっきり素敵なリースを作りましょう。	300円
人　形　劇	2.18	手作りの人形達が、心温まるお話やダンスで楽しませてくれます。小さいお子様もお待ちしています。	200円

サマーフェスタ、今年は７月17日（日）に行います。
御期待下さい。
千鳥福祉会夏祭り実行委員会

報告　苦情解決委員会より

平成十六年度苦情受付は一件でした。
話し合いにより、円満解決いたしました。
ご意見・ご要望をお寄せください

平成十七年度　苦情受付窓口
持田寮・グループホーム　江指裕嗣
L.C.C.ういんぐ　遠所三津江
ケアセンター大空　竹内淳子

頂き物をしました。ありがとうございました。

万田睦子様　足立勝美様　門脇好栄様
舩木春子様　鈴木茂夫様　三上信弘様
染次秀一様　野津恵一様
日清医療食品株式会社様

編集後記

機関誌「つばき」もおかげさまで記念すべき発刊100号という節目を迎えることとなりました。ネーミング募集につきましては沢山の方からご意見を寄せていただき有難うございました。現行の「つばき」という名称は愛着もあり、定着しているとの声が高く、今後も引き続き使うことに致しました。これからも皆様に楽しく読んでいただけるよう頑張りますのでご期待下さい。　遠所三津江

桜は今年も一層美しく咲いて、そのたゆまない咲きっぷりにはいささか敬服もしたりしながら、“ほ～っ”と弁当を食べました。花のトンネルの中を１時間ばかり思い思いの速さで散歩をしながら、この屈託のない癒しの時間は何ものにも変えがたいものとして感じました。介助の手を差し伸べながら花を眺め一緒に時を過ごした職員の心には「制度以前に一人ひとり違う願いを持った人の暮らしがあり、そこに福祉がある」という確かな実感が残ったのではないでしょうか。

春を感じて

毎週火曜日は、音楽活動とパタカラ口腔筋トレーニングに参加するため、約20人の利用者さんが公民館の「やすらぎ会館」を目指して健康ウオーキングを行っています。中には、パタカラを口にくわえて歩くのは、はずかしいとおっしゃる人もありますが、地域の方々にもあたたかく見守られ歩いていると、道端のつくしや水仙、チューリップなどに沢山の春を感じることができました。これからも四季の移り変わりを楽しみながら続けていきたいと思います。

コラム－読者の皆様から

口唇の秘密

前回のコラムに引き続き、口唇の第２番目の秘密についてご紹介します。それは口唇と他の器官とに無随意運動（無意識に行われる運動）がおきます。口をつむぐと無意識に舌が挙上します。舌が上に上がるということは舌の下にある舌骨・喉頭（のど）が上に引き上げられるということも意味します。口を閉じる力が弱いと物を飲み込む、話をする、歌を歌うさいに上手にできない、口呼吸をする、眠るとイビキをかく・息が止まる、などがおきることを意味しております。皆さんは睡眠中のイビキ・無呼吸は周りへの騒音源になっている程度のこととお考えかもしれませんが、イビキは身体に酸素が不足している信号と捉えなければなりません。怖いことです。体内が酸素不足で健康を維持できるわけがありません。現代医学では糖尿病・高血圧症・心疾患の共通原因としてイビキ・無呼吸が強く関与していることを証明しています。口唇を強く閉じるストレッチで虫歯や歯周病の予防効果だけではなく、糖尿病・高血圧症・心疾患の予防や改善に効果があることを意味しております。

次回は口唇の秘密の最終回です。

自 立 ～本人の主張４～

お母さんが高齢であると同時に入院となり、その後はつらいことばかりでした。至れり尽くせりの愛情をたっぷり受けて、思いのままに暮らしていたのに、他人の中で生活するわけですから当然のことです。箸がもてなくなって、食事介助もしました。足が立たなくなって車椅子も使いました。なぜ自分だけがこんなにつらいのか。医者に連れて行って欲しいとおっしゃいました。それが、花見の２～３日前から独歩で移動されているのを見かけるようになりました。

職員間では「ひとつ乗り越えられたようですね」と話しが出ていました。

今日の花見はバスまで自分で歩いていかれました。

花見はことのほか気に入っていただき、「花見に来たのは子供のころで、やあ～、家や周りは全部変わってしまって、川もずいぶん狭くなって、変わらんのは桜の花だけですわ。今日は本当にいい勉強をしました。」と何度も繰り返し話されていました。

帰りのバスの中で「もうここで働くことに決めました。いろんなことを言いましたが100メートル歩けるように目標を持ってやります。下着がないのですがどうしましょうか。」「自分で買いに行ってください。」「まだ歩けません。」「すぐに歩けるようになります。職員がついていきますので大丈夫です。」「そうですか、自分で行くんですか。もう家のことはいいですか。」「あなたはもう大人です。自分で考えて自分の暮らしをしなければ。」「できるでしょうか。」・・・こんな話を帰りのバスでしました。もう60が近いとおっしゃいます。そしてこれからも対人関係ではまだまだ試練が待っています。そのたびにまた自分の辛さを乗り越える作業が待っています。でもまだ、うん十年はあります。きっといい人生になるよう支援したいものです。